



杉浦辰夫 議員

防犯対策について

問 平成26年4月末で住宅を対象とした侵入盗の犯罪率が、愛知県警調べで、高浜市が県下ワースト第3位の認知件数14と出ていました。又、愛知県は、住宅を対象とした侵入盗の件数が、平成19年から平成25年まで7年連続「全国ワースト1位」です。高浜市として、取り組んできた事業とその成果について。

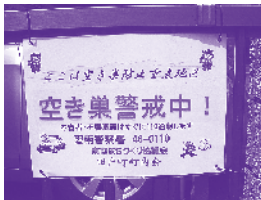
答 高浜市防犯委員会、町内会、まちづくり協議会、ボランティア団体など各種団体と碧南警察署、行政が連携した防犯対策、街頭での啓発活動、夜間の防犯パトロールの実施、子どもや高齢者などに対する防犯教室などに取り組んだ。又、委託業者による夜間防犯パトロールの準備、実施に加え、5月からは、市職員による夜間青色防犯パトロールを各部署、交代制で週2日程度実施した取り組みにより、地域・市民の皆様方の防犯意識

が高まるとともに、市内の犯罪発生件数の減少にも微力ではあるが、貢献している。
問 碧南警察署等から寄せられる犯罪情報や防犯情報の町内会やまちづくり協議会への積極的な提供は、どのような流れで地域に犯罪情報等が提供されるのか。

答 碧南警察署が運用している「パトネットあいち」による犯罪情報の提供と、碧南警察署から市の防犯担当に犯罪情報等が寄せられた際、関係する町内会やまちづくり協議会に直接、犯罪情報を提供する。

問 まちづくり協議会での特色ある防犯活動の成果について。

答 全てのまちづくり協議会において、青色防犯パトロールの実施や犯罪発生啓発チラシの掲示に努めている。南部まちづくり協議会では、犯罪情報の連絡を受け次第、電光掲示板ボードに表示、又、空き巣防止重点地区「空き巣警戒中」のステッカーを配布。吉浜地区、呉竹町において、車上狙いが多発したこともあり「赤色回転灯」による防犯活動を展開され、効果を上げています。



高齢者福祉について



鷲見宗重 議員

問 入所できなくなる要介護1、2の者に対して、対応は。また、現在の待機者は何人になるか、待機者の対応は。

答 市町村が適切な関与のもとで、施設における入所検討委員会を経て、特例的に、入所を認めていくこととなります。待機者は150名程度となっています。

問 介護・医療総合法案は市民に対しては負担が大きくなると同時に介護の利用も抑えられてしまうことが予想されます。高浜市として、この法案を撤回するよう政府に求めるべきでは。

答 国会で審議がなされているということ、その経緯を注意深く、見ていきます。現時点で撤回を求めることはいたしません。
問 碧南市では65歳以上の市民に対して、ゴミ焼却所の余熱利用施設サンビレッジの浴場などが

が利用できる利用券を年間24枚配布している。高浜市においても、実施する考えは。
答 日常的に運動など行っている人の割合などの指標を達成するには、お風呂に特化したサービスマイル事業などの推進が合致していると考えていますのでご理解を。

防災行政について

問 沢渡町一丁目地内で、雨による浸水被害が出ていることを聞いているが、浸水対策として何か考えるものは。

答 集水桝や側溝の一部に開発行為の住宅建築時のコンクリートを洗い流したカスによって、堆積した土砂等が固まっている箇所が多数見つかりましたので、堆積物の除去をおこないます。浸水対策としまして、雨が降り出した早い段階で、側溝へ雨水を流入させるため、必要と判断される箇所をグレーチング蓋に交換をいたします。

また、区域で実施されている開発行為の事業者等に対して住宅建築時で道具の洗い流しなどが出るコンクリートなどの取り扱いについて、対応の申し入れをいたしております。